

風しんの第5期の定期接種について(お知らせ)

高松市保健所保健予防課

TEL 839-2860

【風しん（三日ばしか）について】

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。ウイルスに感染してもすぐに症状が出ず、約14～21日の潜伏期間がみられます。その後、淡い色の発しん、発熱、首の後ろのリンパ節が腫れるなどが主な症状として現れます。その他に、せき、鼻汁、目が赤くなるなどの症状がみられることもあります。

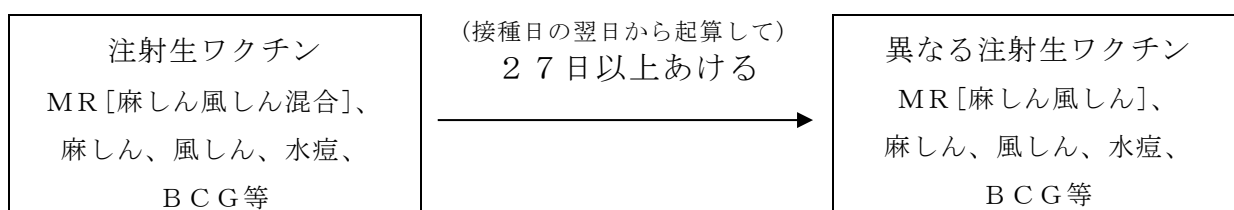
合併症として、関節炎、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は風しん患者約2,000人に1人、脳炎は風しん患者約5,000人に1人ほどの割合で見られます。大人になってからかかると、子どもの時より重症化する傾向が見られます。妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害を持った子どもが生まれる可能性があります。

【麻しん風しんワクチンについて】

●風しんの第5期の定期接種は、原則、麻しん風しん混合ワクチンを使用します。

弱毒生麻しんウイルスをニワトリ胚培養組織で増殖させ、また、弱毒生風しんウイルスをウズラ胚培養組織、又はウサギ腎培養組織で増殖させ、得られたウイルス液を精製して混合し、凍結乾燥した生ワクチンです。

【他の予防接種との間隔】



【副反応】

予防接種のあと、まれに副反応が起こることがあります。主な副反応は発熱や発しんで、その他注射部位の発赤、膨張(はれ)、硬結などの局所反応、じんましん、リンパ節膨張、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。また、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、稀に生じる可能性があります。

【副反応が起こった場合】

予防接種後の副反応だけでなく、予防接種と同時に、ほかの感染症がたまたま重なって発症することがあります。

予防接種を受けたあと、注射部位のひどい腫れ・高熱・ひきつけなどの症状があったら、必ず接種を受けた医師に相談し、特に症状の強いときは、医師の診察を受けてください。

【健康被害救済制度について】

定期接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

【予防接種を受ける前に】

(1) 一般的注意

- ① このお知らせをよく読んで、理解した上で受けましょう。わからない点は医師に質問してください。
- ② 体調が悪ければ延期し、体調の良いときに受けましょう。
- ③ 体温は、接種直前に医療機関で測ってください。明らかに熱のある人（37.5℃以上）は接種を受けられません。
- ④ 予診（予診票と診察）の結果接種が可能なら、医師の説明をよく聞いて、予診票内の『風しんの第5期の定期接種希望書欄』に本人が署名して、接種を受けてください。
- ⑤ 接種後は、30分位医療機関内又はすぐに連絡のとれる範囲で観察してください。また、接種後4週間は副反応の出現に注意してください。
- ⑥ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすったり、過激な運動や大量の飲酒は避けてください。

(2) 予防接種を受けることが適当でない人

- ① 明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 風しんワクチンの接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある人
※「アナフィラキシー」とは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、ショック状態になるような激しい全身反応のことです。
- ④ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する人及び免疫抑制をきたす治療を受けている人
- ⑤ 上の①～④に当てはまらなくても、医師が接種不相当と判断した場合

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障害等の基礎疾患を有する人
- ② 風しんの予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う病状がみられた人
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ④ 接種しようとするワクチンの成分に対してアレルギーを起こす可能性のある人
- ⑤ 3か月以内に輸血及びガンマグロブリン製剤の投与を受けた人又は6か月以内にガンマグロブリン大量療法を受けた人